

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2020年7月2日(02.07.2020)



(10) 国際公開番号

WO 2020/136917 A1

(51) 国際特許分類:

A61F 13/49 (2006.01) *A61F 13/494* (2006.01)

(21) 国際出願番号:

PCT/JP2018/048619

(22) 国際出願日:

2018年12月28日(28.12.2018)

(25) 国際出願の言語:

日本語

(26) 国際公開の言語:

日本語

(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(**UNICHARM CORPORATION**) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分182番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 工藤 悦子(**KUDO, Etsuko**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: フェリシテ特許業務法人 (**FELICITE PATENT PROFESSIONAL**

CORPORATION); 〒1050002 東京都港区愛宕二丁目5番1号 Tokyo (JP).

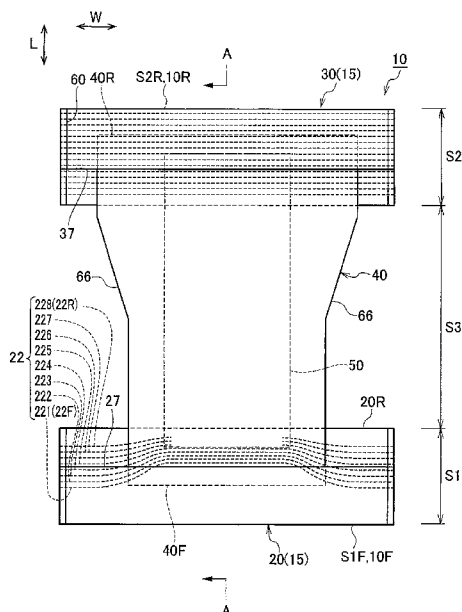
(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ,

(54) **Title:** ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称: 吸収性物品

[図2]



(57) **Abstract:** An absorbent article according to one embodiment of the present application has: a longitudinal direction; a width direction that is orthogonal to the longitudinal direction; a front waist region; a rear waist region; a crotch region positioned between the front waist region and the rear waist region; an absorbent core; an absorbent body that includes the absorbent core and is positioned so as to span the front waist region and the rear waist region; a front exterior member that is positioned further to the non-skin-surface side than the absorbent body in the front waist region; a rear exterior member that is positioned further to the non-skin-surface side than the absorbent body in the rear waist region, and is separate from the front exterior member; and an elastic member that has elasticity in the width direction in the front waist region. The elastic member has at least one curved elastic member that curves toward the front side over the interval from the center in the width direction to the outside in the width direction. At the center in the width direction, the rear end edge of the curved elastic member is positioned further to the front side than the rear end edge of the front exterior member

[続葉有]

TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類：

- 一 国際調査報告（条約第21条(3)）

(57) 要約：一実施形態に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記吸収コアを含み、かつ前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、前記前胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置された前外装体と、前記後胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置され、かつ前記前外装体とは別体である後外装体と、前記前胴回り域において前記幅方向に伸縮性を有する弾性部材と、を有する。前記弾性部材は、前記幅方向の中央から前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲している1以上の湾曲弾性部材と、を有する。前記幅方向の中央において、前記湾曲弾性部材の後端縁は、前記前外装体の後端縁よりも前側に配置されている。

明 細 書

発明の名称： 吸収性物品

技術分野

[0001] 本発明は、吸収性物品に関する。

背景技術

[0002] 従来、幅方向の中央から幅方向の外側に向かって前側に湾曲している湾曲弾性部材を有する吸収性物品が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

[0003] 湾曲弾性部材は、幅方向の中央では股下域に配置されている。これにより、湾曲弾性部材の収縮によって吸収コアが前側（ウエスト開口側）に引き上げられるため、吸収コアが着用者の身体に引き寄せられる。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献 1：特開平 10-127687 号公報

発明の概要

[0005] しかしながら、特許文献 1 の吸収性物品では、前胴回り域において外装体が着用者の身体にフィットし難く、前胴回り域における外装体のフィット性の改善が求められていた。

[0006] そこで、前胴回り域における外装体のフィット性を向上させる吸収性物品が望まれる。

[0007] 一態様に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記吸収コアを含み、かつ前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、前記前胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置された前外装体と、前記後胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置され、かつ前記前外装体とは別体である後外装体と、前記前胴回り域において前記幅方向に伸縮性を有する弾性部材と、を有する。前記弾性部材は、前記幅方向の中央から

前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲している 1 以上の湾曲弾性部材と、を有する。前記幅方向の中央において、前記湾曲弾性部材の後端縁は、前記前外装体の後端縁よりも前側に配置されている。

[0008] 一態様に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記吸収コアを含み、かつ前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、前記吸収性本体の非肌面側において、少なくとも前記前胴回り域及び前記後胴回り域に配置された外装体と、前記前胴回り域において前記幅方向に伸縮性を有する弾性部材と、を有する。前記弾性部材は、前記幅方向の中央から前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲している 1 以上の湾曲弾性部材と、を有する。前記 1 以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも 1 の湾曲弾性部材は、前記吸収コアに重ならない領域に配置されている。

図面の簡単な説明

[0009] [図1]実施形態に係る吸収性物品の正面図である。

[図2]実施形態に係る吸収性物品の平面図である。

[図3]図 2 に示す吸収性物品の A－A 線に沿った断面図である。

[図4]図 4 は、着用者の腹部を説明するための図である。

[図5]図 5 は、変更例 1 に係る吸収性物品 10 の模式平面図である。

[図6]図 6 は、変更例 2 に係る吸収性物品 10 の前外装体 20 の模式平面図である。

[図7]図 7 は、変更例 3 及び変更例 4 に係る吸収性物品を説明するための図である。

発明を実施するための形態

[0010] (1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

[0011] 一態様に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向

と、前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記吸収コアを含み、かつ前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、前記前胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置された前外装体と、前記後胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置され、かつ前記前外装体とは別体である後外装体と、前記前胴回り域において前記幅方向に伸縮性を有する弾性部材と、を有する。前記弾性部材は、前記幅方向の中央から前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲している 1 以上の湾曲弾性部材と、を有する。前記幅方向の中央において、前記湾曲弾性部材の後端縁は、前記前外装体の後端縁よりも前側に配置されている。

[0012] 着用者の腹側には、一般的に、腹部の下端に幅方向に延びる凹みが形成される。この腹部の下端の凹みは、幅方向の中央から幅方向の外側に向かって前側に湾曲している。幅方向の中央において、腹部の下端の凹みは、一般的に、前外装体の後端縁よりも前側（ウエスト開口側）に位置する。

[0013] そこで、幅方向の中央において湾曲弾性部材の後端縁が、前外装体の後端縁よりも前側に配置されることにより、湾曲弾性部材が、幅方向の中央から幅方向の外側にかけて凹みに沿って配置され易くなる。腹部の凹みよりも上側（ウエスト開口側）で腹部が膨らみ始めるため、湾曲弾性部材の収縮によって前外装体が腹部の膨らみにフィットするように引き上げられる。これにより、前外装体のフィット性を向上させることができる。

[0014] 好ましい一態様によれば、前記 1 以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも 1 の湾曲弾性部材は、前記吸収コアに重ならない領域に配置されてよい。

[0015] 吸収コアに重ならない湾曲弾性部材の収縮力は、剛性の高い吸収コアにより阻害されない。当該湾曲弾性部材の収縮力を維持することができるため、前胴回り域における外装体を引き上げつつも、着用者の身体にフィットさせることができる。これにより、前胴回り域における外装体のフィット性を向上させることができる。

[0016] 一態様に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向

と、前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記吸収コアを含み、かつ前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、前記吸収性本体の非肌面側において、少なくとも前記前胴回り域及び前記後胴回り域に配置された外装体と、前記前胴回り域において前記幅方向に伸縮性を有する弾性部材と、を有する。前記弾性部材は、前記幅方向の中央から前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲している 1 以上の湾曲弾性部材と、を有する。前記 1 以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも 1 の湾曲弾性部材は、前記吸収コアに重ならない領域に配置されている。

[0017] これにより、吸収コアに重ならない湾曲弾性部材の収縮力は、剛性の高い吸収コアにより阻害されない。当該湾曲弾性部材の収縮力を維持することができるため、前胴回り域における外装体を引き上げつつも、着用者の身体にフィットさせることができる。これにより、前胴回り域における外装体のフィット性を向上させることができる。

[0018] また、特許文献 1 に記載のように、全ての湾曲弾性部材が、吸収コアと重なる領域に配置された場合、吸収コアが幅方向に縮められ易い。従って、吸収コアに縦皺が入り、吸収コアの剛性が高くなることがある。この場合、吸収コアが着用者の身体に沿って変形し難くなり、前胴回り域における外装体のフィット性が低下することがある。そこで、1 以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも 1 の湾曲弾性部材が、吸収コアに重ならない領域に配置されることで、湾曲弾性部材による吸収コアの剛性が高くなることを抑制し、前胴回り域における外装体のフィット性を向上させることができる。

[0019] 好ましい一態様によれば、前記外装体は、前記前胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置された前外装体と、前記後胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置され、かつ前記前外装体とは別体である後外装体と、であり、前記幅方向の中央において、前記湾曲弾性部材の後端縁は、前記前外装体の後端縁よりも前側に配置されてよい。

[0020] 着用者の腹側には、一般的に、腹部の下端に幅方向に延びる凹みが形成さ

れる。この腹部の下端の凹みは、幅方向の中央から幅方向の外側に向かって前側に湾曲している。幅方向の中央において、腹部の下端の凹みは、一般的に、前外装体の後端縁よりも前側（ウエスト開口側）に位置する。

[0021] そこで、幅方向の中央において湾曲弾性部材の後端縁が、前外装体の後端縁よりも前側に配置されることにより、湾曲弾性部材が、幅方向の中央から幅方向の外側にかけて凹みに沿って配置され易くなる。腹部の凹みよりも上側（ウエスト開口側）で腹部が膨らみ始めるため、湾曲弾性部材の収縮によって前外装体が腹部の膨らみにフィットするように引き上げられる。これにより、前外装体のフィット性を向上させることができる。 好ましい一態様によれば、前記1以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも1の湾曲弾性部材は、前記幅方向の中央を跨ぐように前記幅方向に連続的に延びてよい。

[0022] これにより、幅方向に連続的に延びている湾曲弾性部材により、前胴回り域における外装体を、着用者の腹部の中央において身体にフィットさせることができる。

[0023] 好ましい一態様によれば、前記前胴回り域の側端部と前記後胴回り域の側端部とを接合したサイド接合部が設けられており、前記前胴回り域の側端部において、前記湾曲弾性部材は、前記サイド接合部の前端縁から前記サイド接合部の前後方向全域に対する20%までの範囲よりも後側に配置されてよい。

[0024] 前胴回り域の側端部では、一般的に、サイド接合部の前端縁からサイド接合部の前後方向全域に対する20%までの範囲よりも後側に、腹部の下端の凹みが位置する。従って、前胴回り域の側端部において、湾曲弾性部材を腹部の下端の凹みに配置することができる。これにより、前胴回り域における外装体の側端部においても、当該外装体を身体にフィットさせることができる。

[0025] 好ましい一態様によれば、前記幅方向に連続的に延びている全ての前記湾曲弾性部材は、前記吸収コアに重ならない領域に配置されてよい。

[0026] これにより、幅方向に連続的に延びている全ての湾曲弾性部材の収縮力が

、剛性の高い吸収コアにより阻害されずに、維持することができる。加えて、湾曲弾性部材が連続的に伸びていない場合と比べて、収縮力を確保することができるため、前胴回り域における外装体を身体によりフィットさせることができる。

[0027] 好ましい一態様によれば、前記弾性部材は、前記幅方向に沿って直線状に伸びる直線弾性部材を有し、前記直線弾性部材は、前記湾曲弾性部材よりも前側に配置されてよい。

[0028] 湾曲弾性部材が腹部の下端の凹みに沿って配置されている場合、湾曲弾性部材よりも前側（ウエスト開口側）に配置されている直線弾性部材は、腹部の膨らみに配置される。これにより、腹部の膨らみにおいて前胴回り域における外装体を身体にフィットさせることができる。

[0029] 好ましい一態様によれば、前記弾性部材は、前記幅方向に沿って直線上に伸びる直線弾性部材を有し、前記直線弾性部材は、前記湾曲弾性部材の前端縁のうち最も前側の部分よりも後側で、かつ前記吸収コアの前端縁よりも前側に配置されてよい。

[0030] これにより、直線弾性部材は、湾曲弾性部材により引き上げられ易くなる。このため、湾曲弾性部材の収縮に加えて、直線弾性部材の収縮によって、前胴回り域における外装体を引き上げつつも、前胴回り域における外装体を身体にフィットさせることができる。加えて、直線弾性部材は、吸収コアに重ならない領域に配置されているため、直線弾性部材の収縮力が、剛性の高い吸収コアにより阻害されずに、収縮力を維持することができる。

[0031] 好ましい一態様によれば、前記直線弾性部材は、前記湾曲弾性部材の少なくともいずれかと厚さ方向に重なってよい。

[0032] 湾曲弾性部材は、弾性部材を湾曲させながら配置する必要があるため、直線弾性部材に比べて、配置し難く、収縮力をコントロールし難い。従って、コントロールし易い直線弾性部材によって、湾曲弾性部材が配置される領域の収縮力を調整し易くなり、前胴回り域における外装体を身体に適切にフィットさせることができる。

- [0033] 好ましい一態様によれば、前記吸収性本体は、液不透過性を有するシートを有しており、前記幅方向の中央において、前記シートの前端縁は、前記湾曲弾性部材よりも前側に位置してよい。
- [0034] 湾曲弾性部材の収縮によって液不透過性を有するシートが着用者の身体へ密着することにより、排泄物が湾曲弾性部材よりも前側へ移動し難くすることで、排泄物の前漏れを抑制できる。また、着用者がうつ伏せの場合には、腹部の膨らみによって液不透過性を有するシートの前端縁が身体に密着する。これにより、着用者がうつ伏せの場合に、排泄物の前漏れを抑制できる。
- [0035] 好ましい一態様によれば、前記吸収性本体のうち前記湾曲弾性部材と厚さ方向に重なる領域には、接合部材が設けられていなくてよい。
- [0036] これにより、湾曲弾性部材と厚さ方向において重なる吸収性本体の剛性が高くなることを抑制でき、湾曲弾性部材の収縮が、吸収性本体により阻害されない。従って、湾曲弾性部材の幅方向における収縮力の低減を抑制できるため、前胴回り域における外装体を身体にフィットさせることができる。
- [0037] 好ましい一態様によれば、前記吸収コアよりも肌面側に位置する肌面シートを有し、前記肌面シートは、表面シートと、前記表面シートの両外側部を覆う一对のサイドシートと、を有し、前記一对のサイドシートのそれぞれは、前記前後方向に延びる防漏弾性部材の収縮によって起立する収縮部を有する防漏ギャザーを構成し、前記湾曲弾性部材は、前記収縮部の前端縁よりも前側に配置されてよい。
- [0038] 湾曲弾性部材の収縮によって前胴回り域における外装体が持ち上げられ、収縮部の前後方向の収縮による皺の発生が抑制できる。これにより、排泄物の収容空間を確保することができる。
- [0039] 好ましい一態様によれば、前記吸収コアよりも肌面側に配置された肌面シートを有し、前記肌面シートは、表面シートと、前記表面シートの両外側部を覆う一对のサイドシートと、を有し、前記一对のサイドシートのそれぞれは、前記前後方向に延びる防漏弾性部材の収縮によって起立する収縮部を有する防漏ギャザーを構成し、前記1以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも1

ずれかは、前記収縮部と厚さ方向に重なるように配置されてよい。

[0040] 湾曲弾性部材の伸縮によって防漏ギャザーが幅方向の外側に広がると共に、前側に持ち上げられ易くなる。従って、防漏ギャザーが幅方向の内側に倒れ込んだり、収縮部の収縮により前後方向の内側に引っ張られすぎることを抑制できる。これにより、排泄物の収容空間を確保することができる。また、胴回りと足ぐりの凹みが連続しているので、凹みに沿って湾曲弾性部材と収縮部とにより収縮する領域を連続させることができるため、股下域から前胴回り域にかけて着用者の身体へ吸収性物品を安定してフィットさせることができる。

[0041] 好ましい一態様によれば、前記弾性部材は、前記吸収コアと厚さ方向に重なるように前記幅方向に延びている重複弾性部材を有し、前記重複弾性部材は、前記吸収コアの前記幅方向の中央まで延びていなくてよい。

[0042] 重複弾性部材により、幅方向における収縮力を増加させることにより、前胴回り域における外装体を身体によりフィットさせることができる。さらに、重複弾性部材が、吸収コアの幅方向の一端から他端にわたって延びていないため、吸収コアが幅方向に収縮することを抑制でき、吸収面積を確保することができる。

[0043] 好ましい一態様によれば、前記湾曲弾性部材は、前記前後方向に複数配置されており、前記複数の湾曲弾性部材は、前記前後方向において最も前側に配置されている前湾曲弾性部材と、前記前後方向において最も後側に配置されている後湾曲弾性部材と、を有し、前記前後方向において前記前湾曲弾性部材と前記後湾曲弾性部材との間の領域である湾曲弾性領域を有し、前記前胴回り域の前記幅方向の中心から前記前胴回り域の前記幅方向の側端縁までの領域を前記幅方向に3分割した場合において、最も幅方向の外側に位置する第1サイド領域と、最も幅方向の内側に位置する第1中央領域と、前記第1サイド領域と前記第1中央領域との前記幅方向の間に位置する中間領域と、を有し、前記第1サイド領域における前記前後方向における最大長さは、前記第1中央領域における前記前後方向における最大長さよりも長くてよい。

。

[0044] 腹部の下端の凹みに関して、幅方向の中央における凹みの前後方向における長さよりも幅方向の外側における凹みの前後方向における長さの方が長い。このため、湾曲弾性部材の前後方向の配置を腹部の凹みに合わせて配置することができ、腹部の凹みに前胴回り域における外装体をよりフィットさせることができる。

[0045] 好ましい一態様によれば、前記中間領域における前記湾曲弾性領域の前記前後方向の最大長さと最小長さとの差は、前記第1サイド領域における前記湾曲弾性領域の前記前後方向の最大長さと最小長さとの差、及び前記第1中央領域における前記湾曲弾性領域の前記前後方向の最大長さと最小長さとの差のそれぞれよりも大きくてよい。

[0046] 腹部の下端の凹みの前後方向の最大長さと最小長さとの差は、一般的に、中間領域において最も大きくなる。このため、湾曲弾性部材の前後方向の配置を腹部の凹みに合わせて配置することができ、腹部の凹みに前胴回り域における外装体をよりフィットさせることができる。

[0047] 好ましい一態様によれば、前記後湾曲弾性部材の前記前後方向における最も前側の前端縁と最も後側の後端縁との前記前後方向の長さは、前記前湾曲弾性部材の前記前後方向における最も前側の前端縁と最も後側の後縁端との前記前後方向の長さよりも短くてよい。

[0048] 腹部の下端の凹みの下側（後側）の前後方向の変化は、腹部の下端の凹みの上側（前側）の前後方向の変化よりも小さい。このため、前湾曲弾性部材を腹部の凹みの上端に合わせて配置するとともに、後湾曲弾性部材を腹部の凹みの下端に合わせて配置することができ、腹部の凹みに前胴回り域における外装体をよりフィットさせることができる。

[0049] 好ましい一態様によれば、前記第1中央領域において、前記前湾曲弾性部材は、前記サイド接合部の前端縁から前記サイド接合部の前後方向全域に対する60%までの範囲よりも後側に配置されてよい。

[0050] 第1中央領域において、腹部の下端の凹みは、サイド接合部の前端縁から

サイド接合部の前後方向全域に対する60%までの範囲よりも後側に配置されている。このため、湾曲弾性部材の前後方向の配置を腹部の凹みに合わせて配置することができ、腹部の凹みに前胴回り域における外装体をよりフィットさせることができる。

[0051] 好ましい一態様によれば、前記湾曲弾性部材は、前記前後方向に複数配置されており、前記第1サイド領域において、隣接する湾曲弾性部材どうしの前記前後方向における間隔は、等間隔であってよい。

[0052] 湾曲弾性部材による伸縮力が前後方向において均等に働きやすくなり、湾曲弾性領域の剛性を均一にすることができる。これにより、湾曲弾性領域の剛性が局所的に低い部分がなくなるため、皺及びたくれが発生し難い。その結果、腹部の下端の凹みに対して、前外装体を面でフィットさせることができる。

[0053] 好ましい一態様によれば、前記前胴回り域を前記幅方向に3分割した場合において、最も幅方向の外側に位置する一对の第2サイド領域と、最も幅方向の内側に位置する第2中央領域と、を有し、前記第2サイド領域における前記湾曲弾性部材の収縮倍率は、前記第2中央領域における前記湾曲弾性部材の収縮倍率以上であってよい。

[0054] 第2中央領域における湾曲弾性部材の収縮倍率が小さいため、吸収コアが幅方向に縮み難くなり、吸収面積を確保することができる。加えて、腹部の中央を締め付け難くなり、腹部の中央にゴム跡が付き難くなる。さらに、第2サイド領域における湾曲弾性部材の収縮倍率が大きいため、第2サイド領域で腹部の凹みに前胴回り域における外装体をよりフィットさせることができ、前胴回り域の幅方向の外側での漏れを抑制できる。

[0055] 好ましい一態様によれば、前記一对の第2サイド領域における前記湾曲弾性部材のそれぞれの収縮倍率は、同じであってよい。

[0056] これにより、前胴回り域の幅方向の両外側でのフィット性を均一にすることで、一方側が股下側へずれることを抑制でき、前胴回り域の幅方向の外側での漏れを抑制できる。

[0057] 好ましい一態様によれば、前記前胴回り域を前記幅方向に3分割した場合において、最も幅方向の外側に位置する一对の第2サイド領域と、最も幅方向の内側に位置する第2中央領域と、を有し、前記湾曲弾性部材は、前記前後方向に複数配置されており、前記複数の湾曲弾性部材は、前記第2中央領域において、隣接する湾曲弾性部材どうしの前記前後方向における間隔が最大となる領域よりも前側に配置されている第1湾曲弾性部材と、前記領域よりも後側に配置されている第2湾曲弾性部材と、を有し、前記第2中央領域において、前記第2湾曲弾性部材の収縮倍率は、前記第1湾曲弾性部材の収縮倍率よりも小さくてよい。

[0058] 第2中央領域において、第1湾曲弾性部材によって、腹部の凹みに前胴回り域における外装体をフィットさせつつ、第2湾曲弾性部材により吸収コアが縮むことを抑制できる。

[0059] (2) 吸収性物品の全体概略構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

[0060] 吸収性物品は、テープ型であってもよいし、パンツ型であってもよい。吸収性物品は、使い捨ておむつであってもよいし、ショーツ型の生理用ナプキンであってもよい。実施形態の吸収性物品は、パンツ型の使い捨ておむつである。図1は、本実施形態に係る吸収性物品10の模式正面図である。図2は、本実施形態に係る使い捨ておむつ10の模式平面図である。図3は、図2に示すA-A線に沿った断面図である。図2及び図3では、後述するサイド接合部60を展開した状態において吸収性物品10を皺が形成されない状態まで伸長させた伸長状態を示している。

[0061] 吸収性物品10は、互いに直交する前後方向L及び幅方向Wを有する。前

後方向Lは、身体前側と身体後側とに延びる方向によって規定される。言い換えると、前後方向Lは、展開された吸収性物品10において前後に延びる方向である。また、吸収性物品10は、前後方向Lと幅方向Wの両方の直交する厚み方向を有する。

[0062] 吸収性物品10は、前胴回り域S1と、後胴回り域S2と、股下域S3と、を有する。前胴回り域S1は、着用者の前胴回り（腹部）に対向する領域である。後胴回り域S2は、着用者の後胴回り（背部）に対向する領域である。股下域S3は、着用者の股下に位置し、前胴回り域S1と後胴回り域S2との間に配置された領域である。

[0063] 吸収性物品10は、吸収性本体40と、外装体15と、を有してよい。外装体15は、吸収性本体40の非肌面側T2において、少なくとも前胴回り域S1及び後胴回り域S2に配置されている。外装体15は、吸収性本体40と厚み方向に重なっている。外装体15は、前外装体20と、後外装体30と、を有してよい。前外装体20は、前胴回り域S1において吸収性本体40よりも非肌面側T2に配置されている。前外装体20は、前胴回り域S1において、吸収性本体40と重なる領域と、吸収性本体40と重ならない領域と、に配置されている。後外装体30は、後胴回り域S2において吸収性本体40よりも非肌面側T2に配置されている。後外装体30は、前外装体20とは別体である。従って、後外装体30は、前外装体20と前後方向Lに離間している。後外装体30は、後胴回り域S2において、吸収性本体40と重なる領域と、吸収性本体40と重ならない領域と、に配置されている。

[0064] 図3に示すように、前外装体20は、吸収性本体40の非肌面側T2に配置された前第1外装シート25と、前第1外装シート25の非肌面側T2に位置する前第2外装シート26と、前第1外装シート25と前第2外装シート26の間に配置された外装伸縮シート28と、を有してよい。また、前外装体20の肌面側T1には、前カバーシート27が配置されてよい。前カバーシート27は、吸収性本体40の肌面側T1に配置されてよい。吸収性本

体40と重ならない領域では、前カバーシート27、前第1外装シート25、外装伸縮シート28及び前第2外装シート26が肌面側T1から非肌面側T2に向かって順に積層され、互いに接合されている。なお、前カバーシート27、前第1外装シート25及び前第2外装シート26は、別々のシートによって構成されていてもよいし、折り返された同一のシートによって構成されていてもよい。

[0065] 図3に示すように、後外装体30は、吸収性本体40の非肌面側T2に配置された後第1外装シート35と、後第1外装シート35の非肌面側T2に位置する後第2外装シート36と、後第1外装シート35と後第2外装シート36の間に配置された後側糸ゴム38と、を有してよい。吸収性本体40と重ならない領域では、後第1外装シート35、後側糸ゴム38及び後第2外装シート36が肌面側T1から非肌面側T2に向かって順に積層され、互いに接合されてよい。また、後第1外装シート35の肌面側には、後第3外装シート39が配置されてよい。また、後外装体30の肌面側T1には、後カバーシート37が配置されてよい。後カバーシート37は、吸収性本体40の肌面側T1に配置されてよい。後第3外装シート39が配置された領域では、後カバーシート37、後第3外装シート39、後第1外装シート35、後側糸ゴム38及び後第2外装シート36が肌面側T1から非肌面側T2に向かって順に積層され、互いに接合されてよい。なお、後カバーシート37、後第1外装シート35、後第2外装シート36及び後第3外装シート39は、別々のシートによって構成されていてもよいし、折り返された同一のシートによって構成されていてもよい。後第2外装シート36及び後第3外装シート39は、胴回り開口部67において折り返された同一のシートによって構成されてよい。

[0066] 股下域S3は、後述する脚回り開口部66（図1参照）が形成された領域である。前胴回り域S1の股下域側の境界は、脚回り開口部66の前端縁であり、後胴回り域S2の股下域側の境界は、脚回り開口部66の後端縁である。なお、他の実施形態において、外装体15は、前外装体20及び後外装

体 3 0 が一体化され、かつ前胴回り域 S 1 から後胴回り域 S 2 に亘って設けられていてもよい。

[0067] 図 1 に示すように、幅方向 W における前胴回り域 S 1 の端部（側端部）と、幅方向 W における後胴回り域 S 2 の端部（側端部）と、を接合したサイド接合部 6 0 が設けられていてよい。サイド接合部 6 0 は、幅方向 W における前胴回り域 S 1 の端部と、幅方向 W における後胴回り域 S 2 の端部とを互いに係止した部分によって規定される。

[0068] なお、本発明における外側部とは、幅方向 W における外縁を含む幅方向 W に一定の範囲を占める部分であり、外側縁とは、幅方向 W における外縁である。本発明における内側部とは、幅方向 W における内縁を含む幅方向 W に一定の範囲を占める部分であり、内側縁とは、幅方向 W における内縁である。また、本発明における前端部及び後端部は、前後方向 L における縁を含む前後方向 L に一定の範囲を占める部分であり、前端縁及び後端縁は、前後方向 L における縁である。外端部は、前端部及び後端部を含んでおり、外端縁は、前端縁及び後端縁を含んでいる。

[0069] 図 1 に示すように、サイド接合部 6 0 が形成された状態で、吸収性物品 1 0 には、着用者の胴が通される胴回り開口部 6 7（ウエスト開口）と、着用者の脚がそれぞれ挿入される一対の脚回り開口部 6 6 と、が形成される。胴回り開口部 6 7 は、前胴回り域 S 1 の前端縁 S 1 F と、後胴回り域 S 2 の後端縁 S 2 R とによって規定されていてよい。

[0070] ここで、図 2 は、サイド接合部 6 0 における接合を解除し、吸収性物品 1 0 を展開した状態を示している。サイド接合部 6 0 は、前外装体 2 0 及び後外装体 3 0 のそれぞれにおいて、前後方向 L に沿って延びていてよい。パンツ型の吸収性物品においては、前胴回り域 S 1 と股下域 S 3 との境界は、前外装体 2 0 に設けられたサイド接合部 6 0 の後端縁によって規定されていてよい。同様に、後胴回り域 S 2 と股下域 S 3 との境界は、後外装体 3 0 に設けられたサイド接合部 6 0 の前端縁によって規定されていてよい。

[0071] 図 3 に示すように、前胴回り域 S 1 には、幅方向 W に伸縮性を有する弾性

部材が配置されている。弾性部材は、幅方向Wの中央から幅方向Wの外側に向かって前側に湾曲している1以上の湾曲弾性部材22を有する。従って、弾性部材は、少なくとも湾曲弾性部材22により構成されている。本実施形態において、弾性部材は、湾曲弾性部材22として、幅方向Wに伸縮可能な前側糸ゴムを有する。弾性部材は、湾曲弾性部材22に加えて、幅方向Wに伸縮可能な外装伸縮シート28によって構成されてよい。弾性部材は、湾曲弾性部材22に加えて、例えば、伸縮可能なシートにより構成された前外装体20自体によって構成されていてもよい。

[0072] 湾曲弾性部材22は、接合剤（例えば、接着剤）により、前第1外装シート25、前第2外装シート26、及び外装伸縮シート28の少なくともいずれかに固定されている。

[0073] 後胴回り域S2には、幅方向Wに伸縮性を有する弾性部材が配置されてよい。弾性部材は、幅方向Wに伸縮可能な後側糸ゴム38、及び幅方向Wに伸縮可能な外装伸縮シートの少なくともいずれかによって構成されてよい。この代わりに、弾性部材は、例えば伸縮可能なシートにより構成された後外装体30自体によって構成されていてもよい。

[0074] 吸収性本体40は、前外装体20及び後外装体30に跨って配置されている。すなわち、吸収性本体40は、前胴回り域S1、後胴回り域S2及び股下域S3にわたって延びている。吸収性本体40は、前外装体20及び後外装体30とは別体として構成されていてよい。この場合、吸収性本体40は、前胴回り域S1及び後胴回り域S2において、それぞれ前外装体20及び後外装体30と接合されていてよい。

[0075] 吸収性本体40は、少なくとも吸収コア50を含んでいる。吸収コア50は、例えば粉碎パルプもしくは高吸収性ポリマー（SAP）、又はこれらの混合物を含んでいてよい。吸収コア50は、少なくとも股下域S3に配置されている。好ましくは、吸収コア50は、前後方向Lにおいて、前胴回り域S1から後胴回り域S2にわたって延びていてよい。吸収コア50は、コアラップによって覆われていてよい。さらに、図3に示すように、吸収性本体

40は、吸収コアよりも肌面側に位置する肌面シート42Aと、吸収コア50よりも非肌面側に位置する液不透過シート41と、液不透過シート41よりも非肌面側T2に配置された本体シート42Bと、を有してよい。液不透過シート41は、液不透過性を有するシートである。

[0076] 本実施の形態の吸収性本体40は、吸収コアよりも前側の領域において、肌面側T1から非肌面側T2に向かって、肌面シート42A、液不透過シート41、本体シート42Bの順で配置されている。また、吸収コア50と重なった領域では、肌面側T1から非肌面側T2に向かって、肌面シート42A、吸収コア50、液不透過シート41、本体シート42Bの順で配置されている。肌面シート42Aと液不透過シート41は、厚み方向Tにおいて吸収コア50を挟んで配置されてよい。液不透過シート41は、透不液性であればよく、例えば、フィルムによって構成されてよい。肌面シート42A及び本体シート42Bは、透液性であればよく、例えば不織布によって構成されていてよい。なお、液不透過シート41は、少なくとも股下域S3を覆ってよい。液不透過シート41は、少なくとも吸収コア50を覆ってよい。

[0077] (3) 湾曲弾性部材22の構成

次いで、図2から図5に基づいて、湾曲弾性部材22の構成について詳細に説明する。図4は、着用者の腹部を説明するための図である。図4Aは、着用者の腹部を正面から見た模式図である。図4Bは、着用者の腹部を側面から見た模式図である。図4Bは、右側が着用者の正面であり、左側が着用者の背面である。図4において、斜線部は、腹部の凹みを示す。腹部の凹みよりも上側は、腹部の膨らみに対応する。なお、2つの点線は、一般的に、前外装体20の前端縁20F及び後端縁20Rが配置される位置である。着用者の身体のラインは、BLで示している。着用者のへそは、Oで示す。

[0078] 吸収性物品10は、1以上の湾曲弾性部材22を有する。図2及び図3に示すように、本実施形態では、吸収性物品10は、複数の湾曲弾性部材22(221-228)を有する。湾曲弾性部材221-228は、前側から後側へ幅方向Wに間隔を空けて配置されている。

[0079] 1以上の湾曲弾性部材22のうち少なくとも1の湾曲弾性部材22は、吸収コア50に重ならない領域に配置されている。本実施形態では、湾曲弾性部材221-225は、吸収コア50に重ならない領域に配置されている。吸収コアに重ならない湾曲弾性部材221-225の収縮力が、剛性の高い吸収コア50により阻害されない。従って、湾曲弾性部材221-225の収縮力を維持することができるため、前外装体20を引き上げつつも、着用者の身体にフィットさせることができる。フィット性を向上させることにより、前外装体20が股下側へずれ落ちることを抑制できる。

[0080] また、1以上の湾曲弾性部材22のうち少なくとも1の湾曲弾性部材22は、幅方向Wの中央を跨ぐように幅方向Wに連続的に延びてよい。本実施形態では、湾曲弾性部材221-225が幅方向Wに連続的に延びている。湾曲弾性部材221-225は、前胴回り域S1の一方の側端部から他方の側端部まで延びている。これにより、幅方向Wに連続的に延びている湾曲弾性部材22により、前外装体20を、着用者の腹部の中央において身体にフィットさせることができる。これにより、前外装体20のフィット性を向上させることができる。なお、幅方向Wの中央は、後述する第2中央領域FC2に対応する。

[0081] また、幅方向Wに連続的に延びている全ての湾曲弾性部材22は、吸収コア50に重ならない領域に配置されてよい。これにより、幅方向Wに連続的に延びている全ての湾曲弾性部材22の収縮力が、剛性の高い吸収コア50により阻害されずに、維持することができる。加えて、湾曲弾性部材22が連続的に延びていない場合と比べて、収縮力を確保できるため、前外装体20を身体によりフィットさせることができる。

[0082] 幅方向Wの中央において、湾曲弾性部材22の後端縁は、前外装体20の後端縁20Rよりも前側に配置されている。すなわち、全ての湾曲弾性部材22は、前外装体20と重なる領域にのみ配置されている。従って、湾曲弾性部材22は、前胴回り域S1にのみ配置されており、股下域S3には配置されていない。複数の湾曲弾性部材22のうち最も後側に配置されている後

湾曲弾性部材 22 R の後端縁は、前外装体 20 の後端縁 20 R よりも前側に配置されている。

[0083] ここで、図 4 に示すように、着用者の腹側には、一般的に、腹部の下端に幅方向に延びる凹み（斜線部参照）が形成される。この腹部の下端の凹みは、幅方向 W の中央から幅方向 W の外側に向かって前側に湾曲している。幅方向 W の中央において、腹部の下端の凹みは、一般的に、前外装体 20 の後端縁 20 R よりも前側（ウエスト開口側）に位置する。

[0084] そこで、幅方向 W の中央において湾曲弾性部材 22 の後端縁が、前外装体 20 の後端縁 20 R よりも前側に配置されることにより、湾曲弾性部材 22 が、幅方向の中央から幅方向の外側にかけて凹みに沿って配置され易くなる。腹部の凹みよりも上側（ウエスト開口側）で腹部が膨らみ始めるため、幅方向 W に連続的に延びている湾曲弾性部材 22 の収縮によって前外装体 20 が腹部の膨らみにフィットするように引き上げられる。これにより、前外装体 20 のフィット性を向上させることができる。

[0085] 図 3 に示すように、幅方向 W の中央において、液不透過シート 41 の前端縁 41 F は、湾曲弾性部材 22 よりも前側に位置してよい。幅方向 W の中央において、液不透過シート 41 の前端縁 41 F は、複数の湾曲弾性部材 22 のうち最も前側に配置されている前湾曲弾性部材 22 F の前端縁よりも前側に配置されている。これにより、湾曲弾性部材 22 の収縮によって液不透過シート 41 が着用者の身体に密着することにより、排泄物が湾曲弾性部材 22 よりも前側へ移動し難くなる。その結果、排泄物の前漏れを抑制できる。

[0086] また、湾曲弾性部材 22 は、腹部の凹みに沿って配置されやすいため、液不透過シート 41 の前端縁 41 F が、前湾曲弾性部材 22 F の前端縁よりも前側に配置されている場合には、液不透過シート 41 が腹部の膨らみと重なる。従って、着用者がうつ伏せの場合には、腹部の膨らみによって液不透過シート 41 の前端縁 41 F が身体に密着する。これにより、着用者がうつ伏せの場合に、排泄物の前漏れを抑制できる。

[0087] なお、幅方向 W の中央よりも外側では、液不透過シート 41 の前端縁 41

Fが、前湾曲弾性部材22Fの前端縁よりも前側に配置されてよいし、後側に配置されてよい。

[0088] 吸収性本体40のうち湾曲弾性部材22と厚さ方向Tに重なる領域には、接合部材が設けられなくてよい。これにより、湾曲弾性部材22と厚さ方向Tにおいて重なる吸収性本体40の剛性が高くなることを抑制でき、湾曲弾性部材22の収縮が、吸収性本体40により阻害されない。従って、湾曲弾性部材22の幅方向Wにおける収縮力の低減を抑制できるため、前外装体20を身体にフィットさせることができる。

[0089] 接合部材は、吸収性本体40内の部材どうしを接合する部材であってよいし、吸収性本体40と前外装体20（前第1外装シート25）とを接合する部材であってよいし、吸収性本体40と前カバーシート27とを接合する部材であってよい。

[0090] また、吸収性本体40の前後方向Lの端部において、吸収性本体40を構成するシートどうしは、接合されていなくてよい。これにより、吸収性本体40の剛性が低くなるため、湾曲弾性部材22の幅方向Wにおける収縮力の低減を抑制できる。従って、前外装体20を身体にフィットさせることができる。

[0091] また、前胴回り域S1の側端部において、湾曲弾性部材22は、サイド接合部60の前端縁からサイド接合部60の前後方向全域に対する20%までの範囲よりも後側に配置されてよい。前胴回り域S1の側端部では、一般的に、サイド接合部60の前端縁からサイド接合部60の前後方向全域に対する20%までの範囲よりも後側に、腹部の下端の凹みが位置する。従って、前胴回り域S1の側端部において、湾曲弾性部材22を腹部の下端の凹みに配置することができる。これにより、前外装体20の側端部においても、前外装体20を身体にフィットさせることができる。なお、サイド接合部60の前後方向全域は、サイド接合部60の前端縁から後端縁までの領域である。

[0092] また、弾性部材は、吸収コア50と厚さ方向Tに重なるように幅方向Wに

延びている重複弾性部材を有してよい。本実施形態では、湾曲弾性部材 2 2 8 が重複弾性部材に対応する。湾曲弾性部材 2 2 8 は、吸収コア 5 0 の幅方向 W の中央まで延びていない。湾曲弾性部材 2 2 8 により幅方向 W における収縮力を増加させることにより、前外装体 2 0 を身体にフィットさせることができる。さらに、湾曲弾性部材 2 2 8 が、吸収コア 5 0 の幅方向 W の一端から他端にわたって延びていないため、吸収コア 5 0 が幅方向に収縮することを抑制できる。これにより、吸収面積を確保できる。

[0093] なお、後述する直線弾性部材 2 3 が、重複弾性部材であってよい。直線弾性部材 2 3 は、吸収コア 5 0 の一方の側端縁から他方の側端縁まで連続的に延びていてもよいし、直線弾性部材 2 3 は、吸収コア 5 0 の中央でカットされることにより、吸収コア 5 0 の幅方向 W の中央まで延びていなくてよい。

[0094] (4) 変更例

次いで、図 5 から図 7 に基づいて、変更例を説明する。図 5 は、変更例 1 に係る吸収性物品 1 0 の模式平面図である。図 6 は、変更例 2 に係る吸収性物品 1 0 の前外装体 2 0 の模式平面図である。図 7 は、変更例 3 及び変更例 4 に係る吸収性物品を説明するための図である。図 7 A は、変更例 3 に係る湾曲弾性部材 2 2 と他の部材との位置関係を説明するための図である。図 7 B は、変更例 4 に係る吸収性物品 1 0 の前外装体 2 0 の模式平面図である。なお、図 5 から図 7 は、伸長状態における図である。なお、上述の実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0095] 次に、変更例 1 について説明する。図 5 に示すように、肌面シート 4 2 A は、表面シート 4 2 1 と、表面シート 4 2 1 の両外側部を覆う一対のサイドシート 4 2 2 と、を有してよい。サイドシート 4 2 2 の内側部は、折り返されて重なってよい。重なったサイドシート 4 2 2 間には、前後方向 L に延びる防漏弾性部材 6 2 が設けられてよい。防漏弾性部材 6 2 は、前後方向 L に伸縮する。防漏弾性部材 6 2 は、前後方向 L に伸縮する糸ゴムによって構成されてよい。サイドシート 4 2 2 は、防漏弾性部材 6 2 の収縮によって肌面側 T 1 に起立する。一対のサイドシート 4 2 2 のそれぞれは、防漏ギャザー

6 1 を構成する。防漏ギャザー 6 1 は、防漏弾性部材 6 2 の収縮によって起立する収縮部 6 3 を有する。防漏ギャザー 6 1 は、収縮部 6 3 の起立支点となる防漏基端縁 6 4 を有する。防漏基端縁 6 4 は、第 1 防漏基端縁 6 4 1 と第 2 防漏基端縁 6 4 2 とを有する。

[0096] 第 1 防漏基端縁 6 4 1 は、収縮部 6 3 よりも幅方向 W の外側において収縮部 6 3 の起立支点となる。第 1 防漏基端縁 6 4 1 は、収縮部 6 3 よりも幅方向の外側においてサイドシート 4 2 2 と表面シート 4 2 1 が接合された領域の内側縁である。第 2 防漏基端縁 6 4 2 は、収縮部 6 3 よりも前後方向 L の両外側において収縮部 6 3 の起立支点となる。第 2 防漏基端縁 6 4 2 は、収縮部 6 3 よりも前後方向 L の両外側においてサイドシート 4 2 2 と表面シート 4 2 1 が接合された領域の内端縁である。

[0097] 収縮部 6 3 は、サイドシート 4 2 2 が表面シート 4 2 1 に接合されてなく、防漏弾性部材 6 2 によって収縮可能な部分であり、非伸長状態の防漏弾性部材 6 2 が配置された部分を含まない。

[0098] 湾曲弾性部材 2 2 は、収縮部 6 3 の前端縁 6 3 F よりも前側に配置されてよい。これにより、湾曲弾性部材 2 2 の収縮によって前外装体 2 0 が持ち上げられ、収縮部 6 3 の前後方向 L の収縮による皺の発生が抑制できる。これにより、排泄物の収容空間を確保することができる。

[0099] また、湾曲弾性部材 2 2 のうち少なくともいずれかは、収縮部 6 3 と厚さ方向 T に重なるように配置されてよい。これにより、湾曲弾性部材 2 2 の伸縮によって防漏ギャザー 6 1 が幅方向の外側に広がると共に、前側に持ち上げられ易くなる。これにより、防漏ギャザー 6 1 が幅方向 W の内側に倒れ込んだり、防漏ギャザー 6 1 が収縮部 6 3 の収縮より前後方向 L の内側に引っ張られすぎることを抑制できる。これにより、排泄物の収容空間を確保することができる。また、胴回りと足ぐりの凹みが連続しているので、凹みに沿って湾曲弾性部材 2 2 と収縮部 6 3 とにより収縮する領域を連続させることができるため、股下域 S 3 から前胴回り域 S 1 にかけて着用者の身体へ吸収性物品 1 0 を安定してフィットさせることができる。

[0100] 次に、変更例2について説明する。図6に示すように、前胴回り域S1の幅方向Wの中心Cから前胴回り域S1の幅方向の側端縁までの領域を幅方向Wに3分割した場合において、吸収性物品10は、第1サイド領域FS1、第1中央領域FC1、及び中間領域FMを有してよい。このように前胴回り域S1を分割した場合に、第1サイド領域FS1は、最も幅方向Wの外側に位置する領域であり、第1中央領域FC1は、最も幅方向Wの内側に位置する領域であり、中間領域FMは、第1サイド領域FS1と第1中央領域FC1との幅方向の間に位置する領域である。

[0101] 複数の湾曲弾性部材22が前後方向Lに複数配置されている場合、複数の湾曲弾性部材22は、前湾曲弾性部材22F及び後湾曲弾性部材22Rを有する。図6に示すように、前後方向Lにおいて前湾曲弾性部材22Fと後湾曲弾性部材22Rとの間の領域である湾曲弾性領域ERが設けられてよい。

[0102] 第1サイド領域FS1における前後方向L11の最大長さは、第1中央領域FC1における前後方向Lの最大長さL13よりも長くてよい。腹部の凹みに関して、幅方向Wの中央における凹みの前後方向Lの長さよりも、幅方向Wの外側における凹みの前後方向Lにおける長さの方が長い（図4参照）。このため、湾曲弾性部材22の前後方向Lの配置を腹部の凹みに合わせて配置することができ、腹部の凹みに前外装体20をよりフィットさせることができる。

[0103] また、図6において、中間領域FMにおける湾曲弾性領域ERの前後方向Lの最大長さL12と最小長さL13との差は、第1サイド領域FS1における湾曲弾性領域ERの前後方向Lの最大長さL11と最小長さL12との差、及び第1中央領域FC1における湾曲弾性領域ERの前後方向Lの最大長さL12と最小長さL13との差のそれぞれより大きくてよい。腹部の下端の凹みの前後方向Lの最大長さと最小長さとの差は、中間領域において最も大きくなる。このため、湾曲弾性部材22の前後方向Lの配置を腹部の凹みに合わせて配置することができる。腹部の凹みに前外装体20をよりフィットさせることができる。

- [0104] なお、長さ L_{11} を100とした場合に、長さ L_{12} は、90であり、長さ L_{13} は、55であり、長さ L_{14} は、48である。
- [0105] 図6において、前湾曲弾性部材22Fの前後方向 L における最も前側の前端縁と最も後側の後端縁との前後方向の長さは、長さ L_{21} である。後湾曲弾性部材22Rの前後方向 L における最も前側の前端縁と最も後側の後端縁との前後方向の長さは、長さ L_{22} である。長さ L_{22} は、長さ L_{21} よりも短くてよい。
- [0106] 腹部の下端の凹みの下側（後側）の前後方向 L の変化は、腹部の下端の凹みの上側（前側）の前後方向 L の変化よりも小さい（図4参照）。このため、前湾曲弾性部材22Fを腹部の凹みの上端に合わせて配置するとともに、後湾曲弾性部材22Rを腹部の凹みの下端に合わせて配置することができ、腹部の凹みに前外装体20をよりフィットさせることができる。
- [0107] 第1中央領域FC1において、前湾曲弾性部材22Fは、サイド接合部60の前端縁60Fからサイド接合部60の前後方向全域に対する60%までの範囲よりも後側に配置されてよい。第1中央領域FC1において、腹部の下端の凹みは、サイド接合部60の前端縁60Fからサイド接合部の前後方向全域に対する60%までの範囲よりも後側に配置されている。このため、湾曲弾性部材22の前後方向 L の配置を腹部の凹みに合わせて配置することができ、腹部の凹みに前外装体20をよりフィットさせることができる。
- [0108] 第1サイド領域FS1において、隣接する湾曲弾性部材22どうしの前後方向 L における間隔は、等間隔であってよい。湾曲弾性部材22による伸縮力が前後方向 L において均等に働きやすくなり、湾曲弾性領域ERの剛性を均一にすることができる。これにより、湾曲弾性領域ERの剛性が局所的に低い部分がなくなるため、皺及びたくれが発生し難い。その結果、腹部の下端の凹みに対して、前外装体20を面でフィットさせることができる。
- [0109] なお、「等間隔」とは、実質的に等間隔であればよく、具体的には、複数の湾曲弾性部材22間の前後方向 L における間隔どうしの差が3mm以下であればよい。剛性をより均一化するために、当該間隔どうしの差は、好まし

くは1mm以下であってよい。

[0110] また、サイド接合部60上の湾曲弾性領域ERの前後方向Lの長さは、サイド接合部60の前後方向全域に対して35%から65%の範囲にあってよい。サイド接合部60上の腹部の下端の凹みは、一般的に、当該範囲にあるため、湾曲弾性部材22の前後方向Lの配置を腹部の凹みに合わせて配置することができ、腹部の凹みに前外装体20をよりフィットさせることができる。

[0111] また、前胴回り域S1の幅方向Wの中心C上の湾曲弾性領域ERの前後方向Lの長さL14は、サイド接合部60の前後方向全域に対して10%から40%の範囲にあってよい。前胴回り域S1の幅方向Wの中心C上の腹部の下端の凹みは、一般的に、当該範囲にあるため、湾曲弾性部材22の前後方向Lの配置を腹部の凹みに合わせて配置することができ、腹部の凹みに前外装体20をよりフィットさせることができる。

[0112] また、第1中央領域FC1において、隣接する湾曲弾性部材22間の最大長さL31は、8mm以上であってよい。第1中央領域FC1において、最大長さL31に対応する湾曲弾性部材22の隙間は、剛性が低くなるため、当該隙間を基点として着用者の肌伸縮に合わせて変形し易くなる。従って、着用者の身体に前外装体20をよりフィットさせることができる。

[0113] 図6に示すように、第1中央領域FC1において隣接する湾曲弾性部材22間の最大長さL31は、第1サイド領域FS1において隣接する湾曲弾性部材22間の最大長さよりも大きくてよい。一方で、第1中央領域FC1において隣接する湾曲弾性部材22間の最小長さは、第1サイド領域FS1において隣接する湾曲弾性部材22間の最小長さよりも小さくてよい。このような構成とするために、例えば、後述する2本以上の第1湾曲弾性部材22Aは、第1中央領域FC1において互いに重なり、第1サイド領域FS1において重ならないように配置されてよい。同様に、後述する2本以上の第2湾曲弾性部材22Bは、第1中央領域FC1において互いに重なり、第1サイド領域FS1において重ならないように配置されてよい。これにより、隣

接する湾曲弾性部材 2 2 どうしの前後方向 L における間隔が最大となる領域 G R を設けることができる。領域 G R は、剛性が低くなる領域であるため、着用者の肌伸縮に合わせて変形し易くなる。

[0114] なお、図 6 では、前側から 1 番目の湾曲弾性部材 2 2（前湾曲弾性部材 2 2 F）と 2 番目の湾曲弾性部材 2 2 の前後方向 L の変化が大きく、前側から 3 番目の湾曲弾性部材 2 2 の前後方向 L の変化が小さい。また、前側から 4 番目の湾曲弾性部材 2 2 の前後方向 L の変化が大きく、前側から 5，6 番目の湾曲弾性部材 2 2 及び 7 番目の湾曲弾性部材 2 2（後湾曲弾性部材 2 2 R）の変化が小さい。このように複数の湾曲弾性部材 2 2 を配置することで、第 1 サイド領域 F S 1 と第 1 中央領域 F C 1 とのそれぞれにおいて、前外装体 2 0 のフィット性を向上させることができる。

[0115] また、図 6 に示すように、前胴回り域 S 1 を幅方向 W に 3 分割した場合において、吸収性物品 1 0 は、一对の第 2 サイド領域 F S 2 と、第 2 中央領域 F C 2 とを有してよい。このように前胴回り域 S 1 を分割した場合に、第 2 サイド領域 F S 2 は、最も幅方向 W の外側に位置する領域であり、第 2 中央領域 F C 2 は、最も幅方向 W の内側に位置する領域である。第 2 中央領域 F C 2 は、第 2 サイド領域 F S 2 に挟まれている領域である。

[0116] 第 2 サイド領域 F S 2 における湾曲弾性部材 2 2 の収縮倍率は、第 2 中央領域 F C 2 における湾曲弾性部材 2 2 の収縮倍率以上である。第 2 中央領域 F C 2 における湾曲弾性部材 2 2 の収縮倍率が小さいため、吸収コア 5 0 が幅方向 W に縮み難くなり、吸収面積を確保することができる。加えて、腹部の中央を締め付け難くなり、腹部の中央にゴム跡が付き難くなる。さらに、第 2 サイド領域 F S 2 における湾曲弾性部材 2 2 の収縮倍率が大きいため、第 2 サイド領域で腹部の凹みに前外装体 2 0 をよりフィットさせることができ、前胴回り域 S 1 の幅方向の外側での漏れを抑制できる。

[0117] 一对の第 2 サイド領域 F S 2 における湾曲弾性部材 2 2 のそれぞれの収縮倍率は、同じであってよい。これにより、前胴回り域 S 1 の幅方向 W の両外側でのフィット性を均一にすることで、一方側が股下側へずれることを抑制

でき、前胴回り域 S 1 の幅方向 W の外側での漏れを抑制できる。

[0118] なお、収縮倍率が「同じ」とは、実質的に同じであればよく、具体的には、収縮倍率の差が 0.2 未満であればよい。

[0119] 複数の湾曲弾性部材 22 は、第 1 湾曲弾性部材 22 A と第 2 湾曲弾性部材 22 B とを有してよい。第 1 湾曲弾性部材 22 A は、隣接する湾曲弾性部材 22 うちの前後方向 L における間隔が最大となる領域 G R よりも前側に配置されている湾曲弾性部材 22 である。第 2 湾曲弾性部材 22 B は、領域 G R よりも後側に配置されている湾曲弾性部材 22 である。図 6 において、領域 G R は、前側から 3 番目の湾曲弾性部材 22 と前側から 4 番目の湾曲弾性部材 22 との間の領域である。

[0120] なお、第 1 湾曲弾性部材 22 A としては、第 1 中央領域 F C 1 において前後方向 L の間隔が小さくなるように延びている。従って、第 1 湾曲弾性部材 22 A は、第 1 中央領域 F C 1 において前後方向 L に収束するように延びている。同様に、第 2 湾曲弾性部材 22 B としては、第 1 中央領域 F C 1 において前後方向 L の間隔が小さくなるように延びている。第 2 湾曲弾性部材 22 B は、第 1 中央領域 F C 1 において前後方向 L に収束するように延びている。しかしながら、第 2 湾曲弾性部材 22 B は、第 1 湾曲弾性部材 22 A が収束する部分とは異なる部分に収束するように延びている。全ての湾曲弾性部材 22 を同じ部分に収束させないことで、局所的に締め付けが強くなる部分を設けないようにすることができる。

[0121] 第 2 中央領域 F C 2 において、第 2 湾曲弾性部材 22 B の収縮倍率は、第 1 湾曲弾性部材 22 A の収縮倍率よりも小さくてよい。第 2 中央領域 F C 2 において、第 1 湾曲弾性部材によって、腹部の凹みに前外装体 20 をフィットさせることができる。また、第 2 湾曲弾性部材によって、腹部の凹みに前外装体 20 をフィットさせつつも、吸収コア 50 が縮むことを抑制できる。

[0122] 湾曲弾性部材 22 の収縮倍率の測定は周知の方法で行えばよい。例えば次の方法にて測定できる。吸収性物品 10 に生じていた皺が視認出来なくなる程に吸収性物品 10 を幅方向 W に最大に伸長した状態での、湾曲弾性部材 2

2の湾曲した実際の長さH1を測定する。次に、測定した長さH1に対応する湾曲弾性部材22を分割線でカットする。湾曲弾性部材22を固定している接合剤（接着剤）を溶融して、湾曲弾性部材22を固定している部材（前第1外装シート25、前第2外装シート26、及び外装伸縮シート28など）から湾曲弾性部材22を分離する。分離した湾曲弾性部材22を十分に乾燥させる。乾燥した湾曲弾性部材22の長さH0を測定する。そして、「収縮倍率＝H1／H0」によって、収縮倍率を算出できる。

[0123] 次に、変更例3について説明する。図7Aに示すように、弾性部材は、幅方向に沿って直線状に延びる直線弾性部材23（231－233）を有してよい。直線弾性部材231は、湾曲弾性部材22よりも前側に配置されてよい。湾曲弾性部材22が腹部の下端の凹みに沿って配置されている場合、湾曲弾性部材22よりも前側（ウエスト開口側）に配置されている直線弾性部材231は、腹部の膨らみに配置される。これにより、腹部の膨らみにおいて前外装体20を身体にフィットさせることができる。

[0124] 湾曲弾性部材22は、腹部の下端の凹みに沿って配置され易い。従って、直線弾性部材231は、腹部の膨らみのうちで最も安定している（すなわち、腹胴回り寸法の変化が緩やかである）ウエスト周辺に配置され易い。このため、直線弾性部材231がずれ落ち難く、着用者の身体にフィットさせることができる。

[0125] また、直線弾性部材23は、湾曲弾性部材22の前端縁のうち最も前側の部分よりも後側に配置されてよい。これにより、直線弾性部材23は、湾曲弾性部材22により引き上げられ易くなる。このため、湾曲弾性部材22の収縮に加えて、直線弾性部材232の収縮によって、前外装体20を引き上げつつも、前外装体20を身体にフィットさせることができる。加えて、直線弾性部材は、吸収コア50に重ならない領域に配置されているため、直線弾性部材232の収縮力が、剛性の高い吸収コア50により阻害されずに、収縮力を維持することができる。

[0126] また、直線弾性部材23は、吸収コア50の前端縁50Fよりも前側に配

置されてよい。これにより、直線弾性部材 23 は、吸収コア 50 に重ならない領域に配置されているため、直線弾性部材 23 の収縮力が、剛性の高い吸収コア 50 により阻害されずに、維持することができる。

[0127] 従って、直線弾性部材 23 は、湾曲弾性部材 22 の前端縁のうち最も前側の部分よりも後側から、吸収コア 50 の前端縁 50F よりも前側の間の範囲 X に配置されてよい。

[0128] また、直線弾性部材 23（直線弾性部材 232、233）は、湾曲弾性部材 22 の少なくともいずれかと厚さ方向 T に重なってよい。湾曲弾性部材 22 は、弾性部材を湾曲させながら配置する必要があるため、直線弾性部材 23 に比べて、配置し難く、収縮力をコントロールし難い。従って、コントロールし易い直線弾性部材 23 によって、湾曲弾性部材 22 が配置される領域の収縮力を調整し易くなり、前外装体 20 を身体に適切にフィットさせることができる。

[0129] また、直線弾性部材 23（直線弾性部材 232）は、湾曲弾性部材 22 の前後方向 L の中心と湾曲弾性部材 22 のうち最も後側の部分との間に配置されてよい。これにより、直線弾性部材 23 が腹部の凹み又は凹みの周辺に配置され易い。従って、直線弾性部材 23 が、湾曲弾性部材 22 に引き上げられることで、腹部の下端の膨らみに沿って、前外装体 20 を身体にフィットさせることができる。

[0130] 次に、変更例 4 について説明する。図 7B に示すように、直線弾性部材 23 は、複数の湾曲弾性部材 22 に厚さ方向 T に重なるように配置されてよい。図 7B では、2 本の直線弾性部材 23 が配置されている。直線弾性部材 23 によって、第 2 サイド領域 FS2 の収縮倍率と、第 2 中央領域 FC2 の収縮倍率とをコントロールしてよい。前外装体 20 を身体に適切にフィットさせることができる。

[0131] なお、直線弾性部材 23 として、糸ゴムを例に挙げて説明しているが、例えば、伸縮シート（外装伸縮シート 28）であってよい。

[0132] （5）その他実施形態

以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0133] 上述では、吸収コア 50 と重なる重複弾性部材として、湾曲弾性部材 22 を例に挙げて説明したが、これに限られない。重複弾性部材は、直線弾性部材 23 であってよい。

[0134] 上述では、湾曲弾性部材 22 は、幅方向 W の中央を跨ぐように幅方向 W に連続的に延びていたが、これに限られない。湾曲弾性部材 22 は、湾曲するように配置されて固定された後に切断されることによって、連続的に延びていない、すなわち、非連続的に幅方向 W に延びてよい。全ての湾曲弾性部材 22 が非連続的に幅方向 W に延びていてもよい。湾曲弾性部材 22 は、任意の位置の部分が切断されることにより、非連続的に延びていてもよい。例えば、湾曲弾性部材 22 は、第 1 サイド領域 F S 1、第 1 中央領域 F C 1、及び中間領域 F M の少なくともいずれかの領域において連続的に延びていてよい。湾曲弾性部材 22 は、第 1 サイド領域 F S 1、第 1 中央領域 F C 1、及び中間領域 F M の少なくともいずれかの領域において非連続的に延びていてよい。前外装体 20 を引き上げる効果をより高めるために、湾曲弾性部材 22 は、中間領域 F M では連続的に延びていることが好ましい。

[0135] また、複数の湾曲弾性部材 22 が配置されている場合には、任意の湾曲弾性部材 22 が連続的に延びてよく、残りの湾曲弾性部材 22 が非連続的に延びてよい。なお、全ての湾曲弾性部材 22 は、連続的に延びていてもよい。

[0136] なお、幅方向 W の中央において、湾曲弾性部材 22 の後端縁は、前外装体 20 の後端縁よりも前側に配置されている場合、全ての湾曲弾性部材 22 は、吸収コア 50 と重なる領域に配置されていてもよい。また、1 以上の湾曲弾性部材 22 のうち少なくとも 1 の湾曲弾性部材 22 が、吸収コア 50 に重

ならない領域に配置されている場合、幅方向Wの中央において、湾曲弾性部材22の後端縁は、前外装体20の後端縁よりも後側に配置されていてもよい。吸収コア50の剛性を高めないことで、前胴回り域S1における外装体15のフィット性を向上させることができる。

[0137] 上述において、図2に示すように、吸収コア50と重なる領域に配置されている全ての湾曲弾性部材22（226－228）が、幅方向Wの中央を跨がないように配置されてよい。吸収コア50と重なる領域に配置されていない湾曲弾性部材22（221－225）が幅方向Wの中央を跨ぐように連続的に延びてよい。これにより、湾曲弾性部材22の伸縮により吸収コア50の剛性が高くなり、前胴回り域S1における外装体15のフィット性を向上させることができる。

[0138] なお、図5に示すように、吸収コア50と重ならない領域に配置されている湾曲弾性部材22が、幅方向Wの中央を跨がないように配置されてよい。例えば、吸収コア50に近い湾曲弾性部材22が、幅方向Wの中央を跨がないように、非連続的に延びており、吸収コア50から遠い湾曲弾性部材22が、連続的に延びていてもよい。

[0139] なお、吸収コア50から離れている湾曲弾性部材22であっても、幅方向Wの中央を跨がないように、非連続的に延びていてもよい。これにより、腹部の中央を締め付け難くなり、腹部の中央にゴム跡が付き難くなる。

[0140] 上述において、湾曲弾性部材22は、着色されていてもよい。これにより、着用者及び／又は母親等の補助者は、湾曲弾性部材22を視認することで、湾曲弾性部材22は、腹部の凹みに沿って配置されていることを実感できる。補助者は、湾曲弾性部材22が腹部の凹みからズレて配置されている場合、色付きの湾曲弾性部材22を視認しながら、腹部の凹みに沿うように、着用者の身体に対して、前外装体20又は吸収性物品10自体の位置を調整してもよい。これにより、前外装体20を身体に適切にフィットさせることができる。

[0141] 複数の湾曲弾性部材22が設けられている場合には、全ての湾曲弾性部材

22が着色されていてもよいし、一部の湾曲弾性部材22が着色されてもよいし、1つの湾曲弾性部材22が着色されてもよい。一部の湾曲弾性部材22が着色される場合、領域GRよりも前側の湾曲弾性部材22（第1湾曲弾性部材22A）の少なくともいずれかが着色されて、領域GRよりも後側の湾曲弾性部材22（第2湾曲弾性部材22B）が着色されてなくてよい。或いは、領域GRよりも前側の湾曲弾性部材22が着色されず、領域GRよりも後側の湾曲弾性部材22の少なくともいずれか着色されてよい。或いは、領域GRよりも前側の湾曲弾性部材22のいずれかが着色されて、領域GRよりも後側の湾曲弾性部材22のいずれか着色されてよい。

[0142] 湾曲弾性部材22の色は、前外装体20を構成する部材との色差が大きい色であればよく、例えば、青色であってよい。これにより、前外装体20を構成する部材は、通常、白色であるため、湾曲弾性部材22を容易に識別できる。なお、湾曲弾性部材22の着色されていない色は、一般的に白色であるため、前外装体20を構成する部材が白色である場合、識別力が低く、着用者及び装着者は視認し難い。

[0143] 色が付けられた湾曲弾性部材22と、当該湾曲弾性部材22の周囲との色差（ ΔE ）は、2以上であってよい。色差 ΔE が2以上であることにより、着用者及び補助者が湾曲弾性部材22を認識し易くなる。

[0144] なお、色差 ΔE は、測定対象となる2点（2つの領域）について市販の測色器を用いて測色を行い、JIS Z 8729に規定されるCIE 1976（ $L^*a^*b^*$ ）色空間に基づいて数値化した値を比較することによって求めることができる。具体的に、測定対象たる2点間の L^* 値の差が ΔL^* 、 a^* の差が Δa^* 、 b^* 値の差が Δb^* であるときに、色差 $\Delta E = [(\Delta L^*)^2 + (\Delta a^*)^2 + (\Delta b^*)^2]^{1/2}$ によって求められる。

産業上の利用可能性

[0145] 前胴回り域における外装体のフィット性を向上させる吸収性物品を得ることができる。

符号の説明

[0146] 1 0	: 吸収性物品
1 5	: 外装体
2 0	: 前外装体
2 2	: 湾曲弾性部材
2 2 A	: 第 1 湾曲弾性部材
2 2 B	: 第 2 湾曲弾性部材
2 2 F	: 前湾曲弾性部材
2 2 R	: 後湾曲弾性部材
2 3	: 直線弾性部材
2 5	: 前第 1 外装シート
2 6	: 前第 2 外装シート
2 7	: 前カバーシート
2 8	: 外装伸縮シート
3 0	: 後外装体
3 5	: 後第 1 外装シート
3 6	: 後第 2 外装シート
3 7	: 後カバーシート
3 8	: 後側糸ゴム
3 9	: 後第 3 外装シート
4 0	: 吸収性本体
4 1	: 液不透過シート
4 1 F	: 前端縁
4 2 A	: 肌面シート
4 2 B	: 本体シート
5 0	: 吸収コア
6 0	: サイド接合部
6 1	: 防漏ギャザー
6 2	: 防漏弾性部材

6 3	: 収縮部
6 4	: 防漏基端縁
6 6	: 脚回り開口部
6 7	: 胴回り開口部
4 2 1	: 表面シート
4 2 2	: サイドシート
6 4 1	: 第 1 防漏基端縁
6 4 2	: 第 2 防漏基端縁
E R	: 湾曲弾性領域
F C 1	: 第 1 中央領域
F C 2	: 第 2 中央領域
F M	: 中間領域
F S 1	: 第 1 サイド領域
F S 2	: 第 2 サイド領域
G R	: 領域
S 1	: 前胴回り域
S 2	: 後胴回り域
S 3	: 股下域

請求の範囲

[請求項1]

前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、
前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、
吸収コアと、
前記吸収コアを含み、かつ前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、
前記前胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置された前外装体と、
前記後胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置され、かつ前記前外装体とは別体である後外装体と、
前記前胴回り域において前記幅方向に伸縮性を有する弾性部材と、を有し、
前記弾性部材は、前記幅方向の中央から前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲している1以上の湾曲弾性部材と、を有する吸収性物品であって、
前記幅方向の中央において、前記湾曲弾性部材の後端縁は、前記前外装体の後端縁よりも前側に配置されている、吸収性物品。

[請求項2]

前記1以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも1の湾曲弾性部材は、前記吸収コアに重ならない領域に配置されている請求項1に記載の吸収性物品。

[請求項3]

前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、
前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、
吸収コアと、
前記吸収コアを含み、かつ前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、
前記吸収性本体の非肌面側において、少なくとも前記前胴回り域及

び前記後胴回り域に配置された外装体と、

前記前胴回り域において前記幅方向に伸縮性を有する弾性部材と、
を有し、

前記弾性部材は、前記幅方向の中央から前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲している 1 以上の湾曲弾性部材と、を有する吸収性物品であって、

前記 1 以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも 1 の湾曲弾性部材は、前記吸収コアに重ならない領域に配置されている、吸収性物品。

[請求項4] 前記外装体は、

前記前胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置された前外装体と、

前記後胴回り域において前記吸収性本体よりも非肌面側に配置され、かつ前記前外装体とは別体である後外装体と、であり、

前記幅方向の中央において、前記湾曲弾性部材の後端縁は、前記前外装体の後端縁よりも前側に配置されている請求項 3 に記載の吸収性物品。

[請求項5] 前記 1 以上の湾曲弾性部材のうち少なくとも 1 の湾曲弾性部材は、前記幅方向の中央を跨ぐように前記幅方向に連続的に延びている請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項6] 前記前胴回り域の側端部と前記後胴回り域の側端部とを接合したサイド接合部が設けられており、

前記前胴回り域の側端部において、前記湾曲弾性部材は、前記サイド接合部の前端縁から前記サイド接合部の前後方向全域に対する 20 %までの範囲よりも後側に配置されている請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項7] 前記幅方向に連続的に延びている全ての前記湾曲弾性部材は、前記吸収コアに重ならない領域に配置されている請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

- [請求項8] 前記弾性部材は、前記幅方向に沿って直線状に延びる直線弾性部材を有し、
前記直線弾性部材は、前記湾曲弾性部材よりも前側に配置されている請求項1から7のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項9] 前記弾性部材は、前記幅方向に沿って直線上に延びる直線弾性部材を有し、
前記直線弾性部材は、前記湾曲弾性部材の前端縁のうち最も前側の部分よりも後側で、かつ前記吸収コアの前端縁よりも前側に配置されている請求項1から8のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項10] 前記直線弾性部材は、前記湾曲弾性部材の少なくともいずれかと厚さ方向に重なっている請求項9に記載の吸収性物品。
- [請求項11] 前記吸収性本体は、液不透過性を有するシートを有しており、
前記幅方向の中央において、前記シートの前端縁は、前記湾曲弾性部材よりも前側に位置する請求項1から10のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項12] 前記吸収性本体のうち前記湾曲弾性部材と厚さ方向に重なる領域には、接合部材が設けられていない請求項1から11に記載の吸収性物品。
- [請求項13] 前記吸収コアよりも肌面側に位置する肌面シートを有し、
前記肌面シートは、表面シートと、前記表面シートの両外側部を覆う一对のサイドシートと、を有し、
前記一对のサイドシートのそれぞれは、前記前後方向に延びる防漏弾性部材の収縮によって起立する収縮部を有する防漏ギャザーを構成し、
前記湾曲弾性部材は、前記収縮部の前端縁よりも前側に配置されている請求項1から12のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項14] 前記吸収コアよりも肌面側に配置された肌面シートを有し、
前記肌面シートは、表面シートと、前記表面シートの両外側部を覆

う一対のサイドシートと、を有し、

前記一対のサイドシートのそれぞれは、前記前後方向に延びる防漏弾性部材の収縮によって起立する収縮部を有する防漏ギャザーを構成し、

前記 1 以上の湾曲弾性部材のうち少なくともいずれかは、前記収縮部と厚さ方向に重なるように配置されている請求項 1 から 12 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項15] 前記弾性部材は、前記吸収コアと厚さ方向に重なるように前記幅方向に延びている重複弾性部材を有し、

前記重複弾性部材は、前記吸収コアの前記幅方向の中央まで延びていない請求項 1 から 14 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項16] 前記湾曲弾性部材は、前記前後方向に複数配置されており、
前記複数の湾曲弾性部材は、

前記前後方向において最も前側に配置されている前湾曲弾性部材と、

前記前後方向において最も後側に配置されている後湾曲弾性部材と、を有し、

前記前後方向において前記前湾曲弾性部材と前記後湾曲弾性部材との間の領域である湾曲弾性領域を有し、

前記前胴回り域の前記幅方向の中心から前記前胴回り域の前記幅方向の側端縁までの領域を前記幅方向に 3 分割した場合において、最も幅方向の外側に位置する第 1 サイド領域と、最も幅方向の内側に位置する第 1 中央領域と、前記第 1 サイド領域と前記第 1 中央領域との前記幅方向の間に位置する中間領域と、を有し、

前記第 1 サイド領域における前記前後方向における最大長さは、前記第 1 中央領域における前記前後方向における最大長さよりも長い請求項 1 から 15 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項17] 前記中間領域における前記湾曲弾性領域の前記前後方向の最大長さ

と最小長さとの差は、前記第 1 サイド領域における前記湾曲弾性領域の前記前後方向の最大長さと最小長さとの差、及び前記第 1 中央領域における前記湾曲弾性領域の前記前後方向の最大長さと最小長さとの差のそれぞれよりも大きい請求項 16 に記載の吸収性物品。

[請求項18] 前記後湾曲弾性部材の前記前後方向における最も前側の前端縁と最も後側の後端縁との前記前後方向の長さは、前記前湾曲弾性部材の前記前後方向における最も前側の前端縁と最も後側の後縁端との前記前後方向の長さよりも短い、請求項 16 又は 17 に記載の吸収性物品。

[請求項19] 前記第 1 中央領域において、前記前湾曲弾性部材は、前記サイド接合部の前端縁から前記サイド接合部の前後方向全域に対する 60%までの範囲よりも後側に配置されている請求項 16 から 18 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項20] 前記湾曲弾性部材は、前記前後方向に複数配置されており、
前記第 1 サイド領域において、隣接する湾曲弾性部材どうしの前記前後方向における間隔は、等間隔である請求項 16 から 19 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項21] 前記前胴回り域を前記幅方向に 3 分割した場合において、最も幅方向の外側に位置する一对の第 2 サイド領域と、最も幅方向の内側に位置する第 2 中央領域と、を有し、

前記第 2 サイド領域における前記湾曲弾性部材の収縮倍率は、前記第 2 中央領域における前記湾曲弾性部材の収縮倍率以上である、請求項 1 から 20 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項22] 前記一对の第 2 サイド領域における前記湾曲弾性部材のそれぞれの収縮倍率は、同じである請求項 21 に記載の吸収性物品。

[請求項23] 前記前胴回り域を前記幅方向に 3 分割した場合において、最も幅方向の外側に位置する一对の第 2 サイド領域と、最も幅方向の内側に位置する第 2 中央領域と、を有し、

前記湾曲弾性部材は、前記前後方向に複数配置されており、

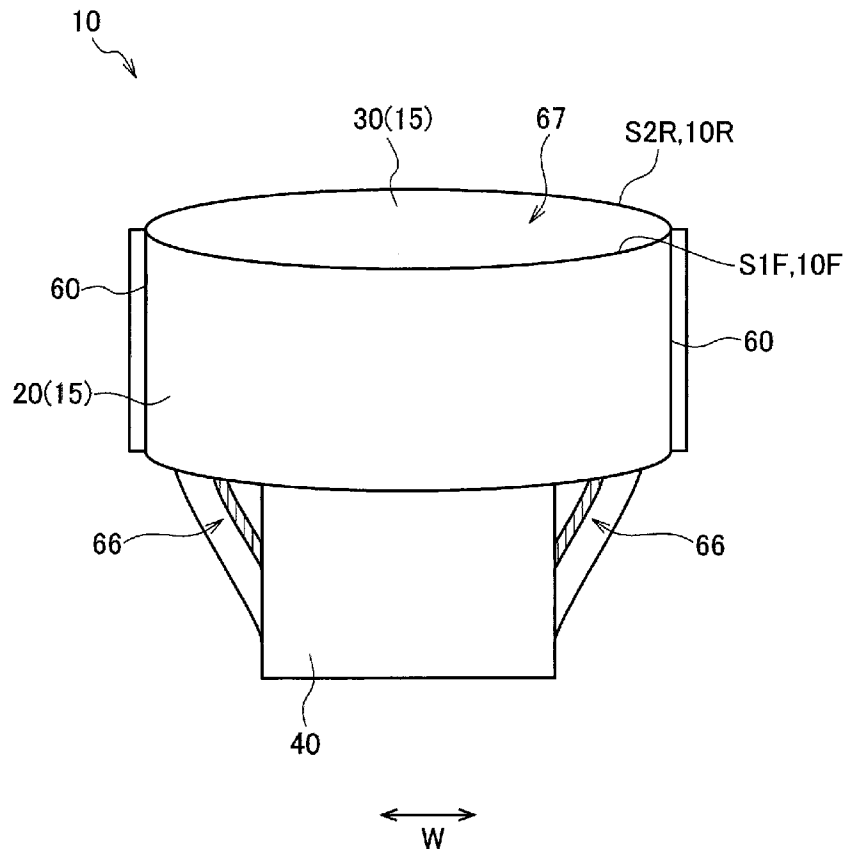
前記複数の湾曲弾性部材は、

前記第 2 中央領域において、隣接する湾曲弾性部材どうしの前記前後方向における間隔が最大となる領域よりも前側に配置されている第 1 湾曲弾性部材と、

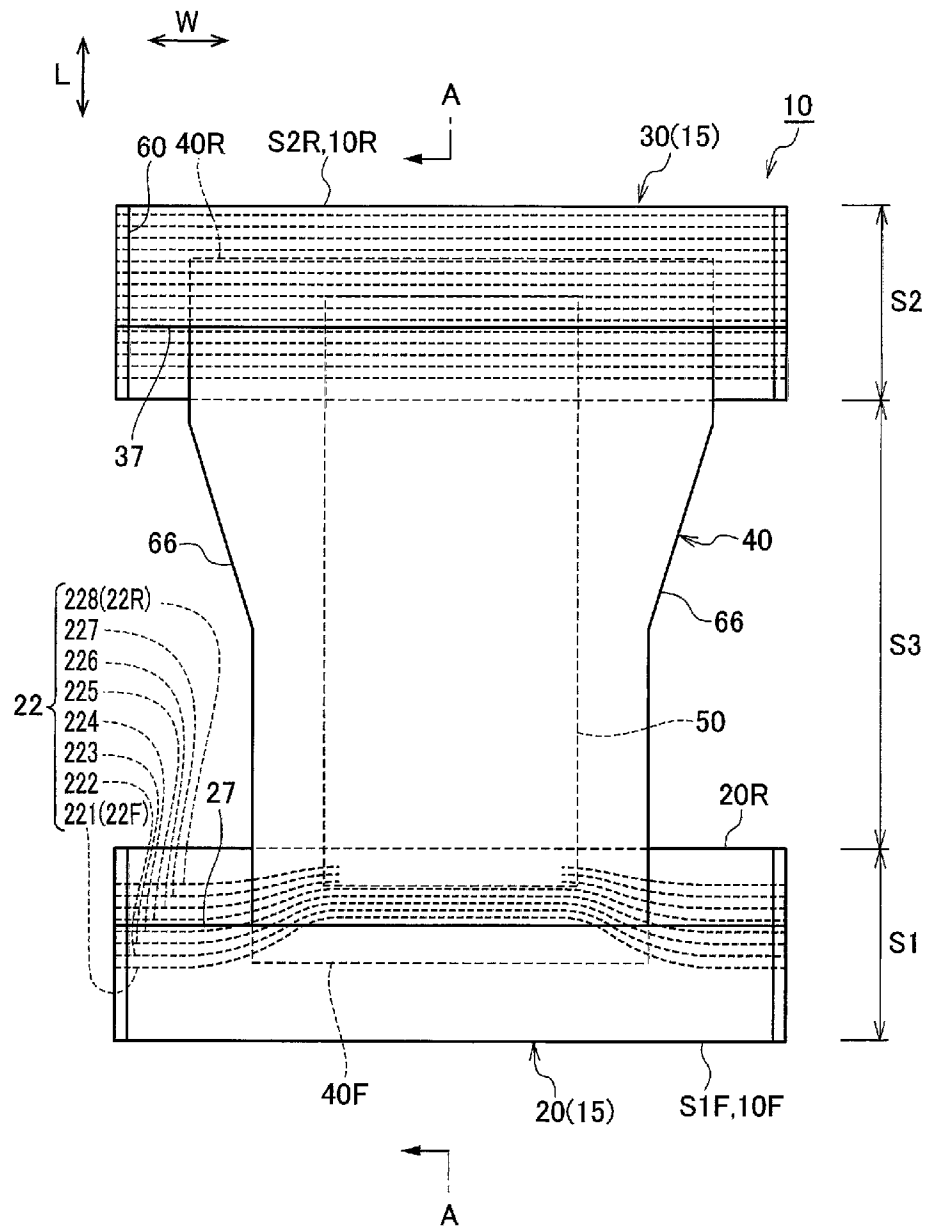
前記領域よりも後側に配置されている第 2 湾曲弾性部材と、を有し、

前記第 2 中央領域において、前記第 2 湾曲弾性部材の収縮倍率は、前記第 1 湾曲弾性部材の収縮倍率よりも小さい請求項 1 から 22 に記載の吸収性物品。

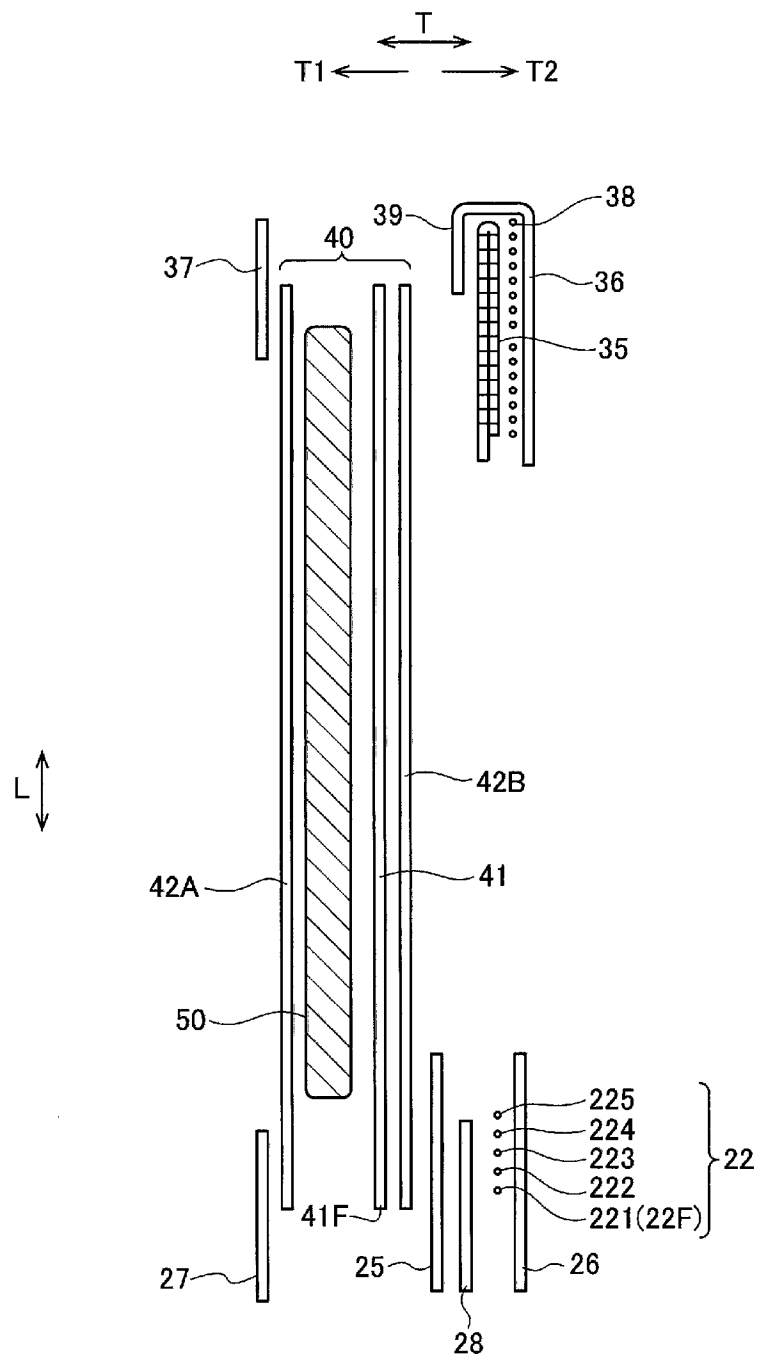
[図1]



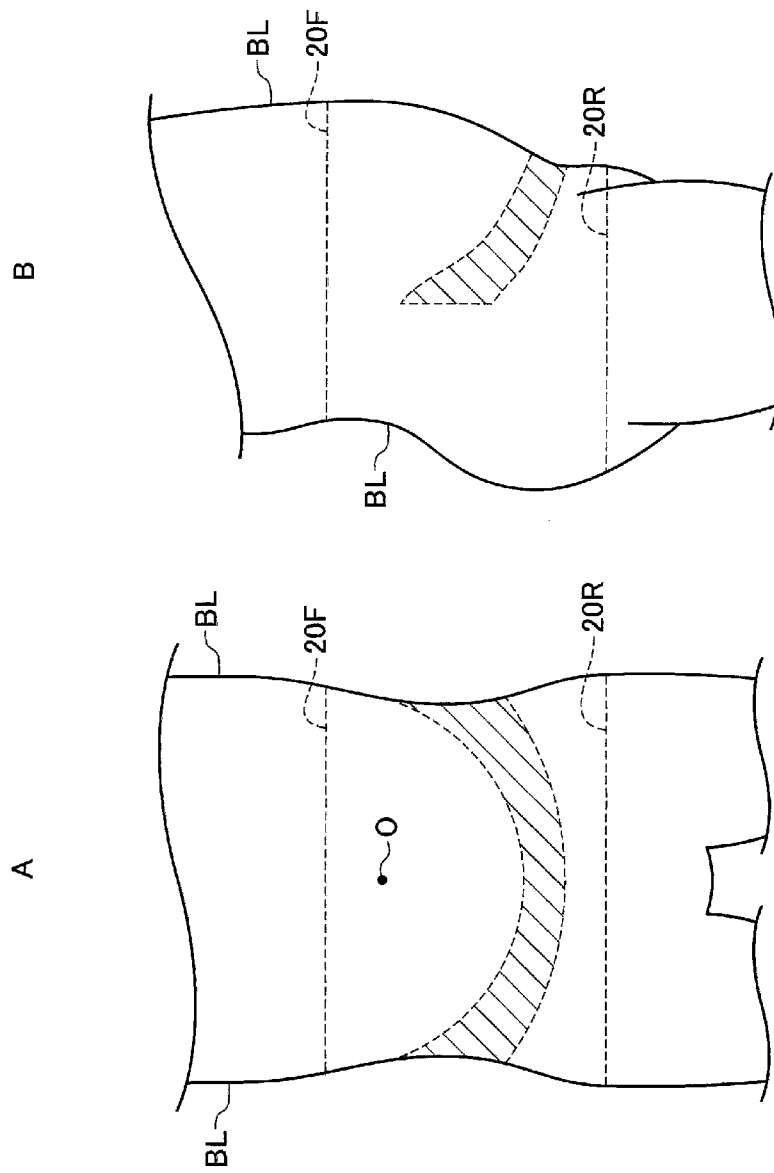
[図2]



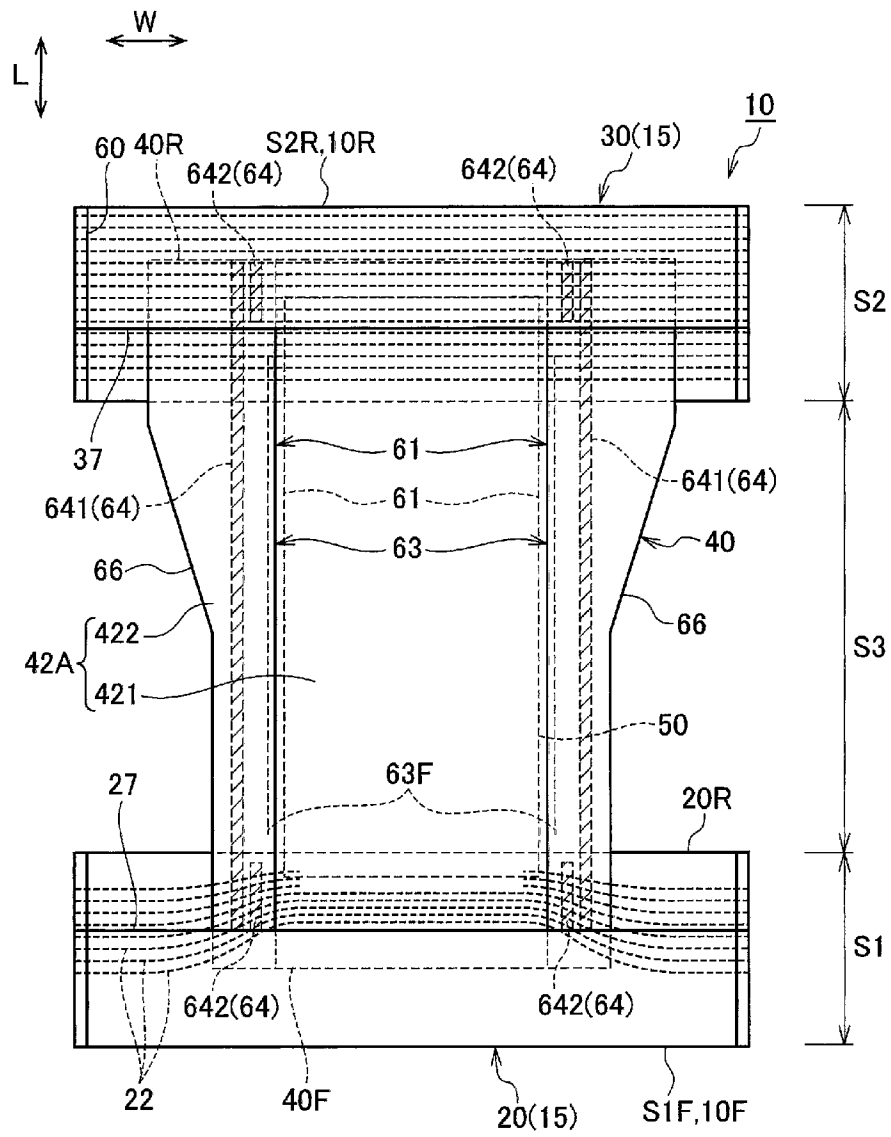
[図3]



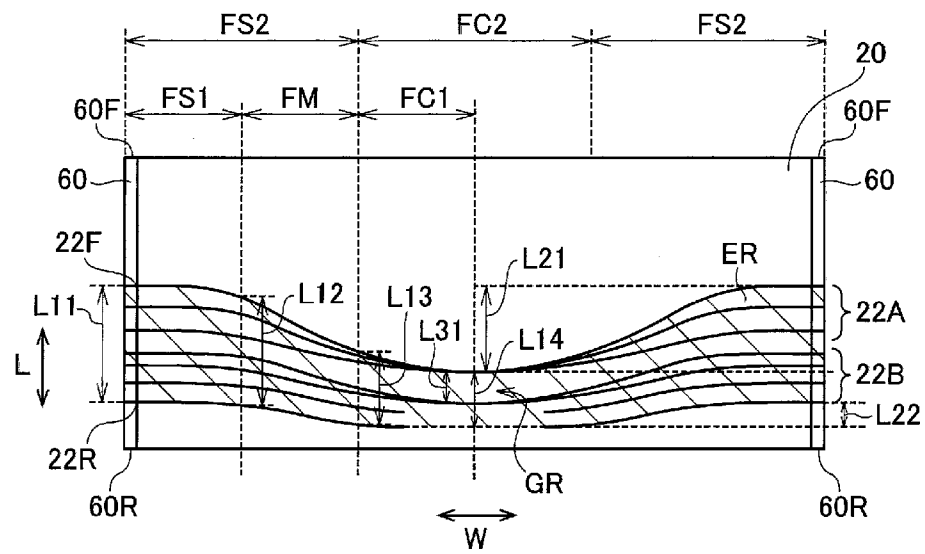
[図4]



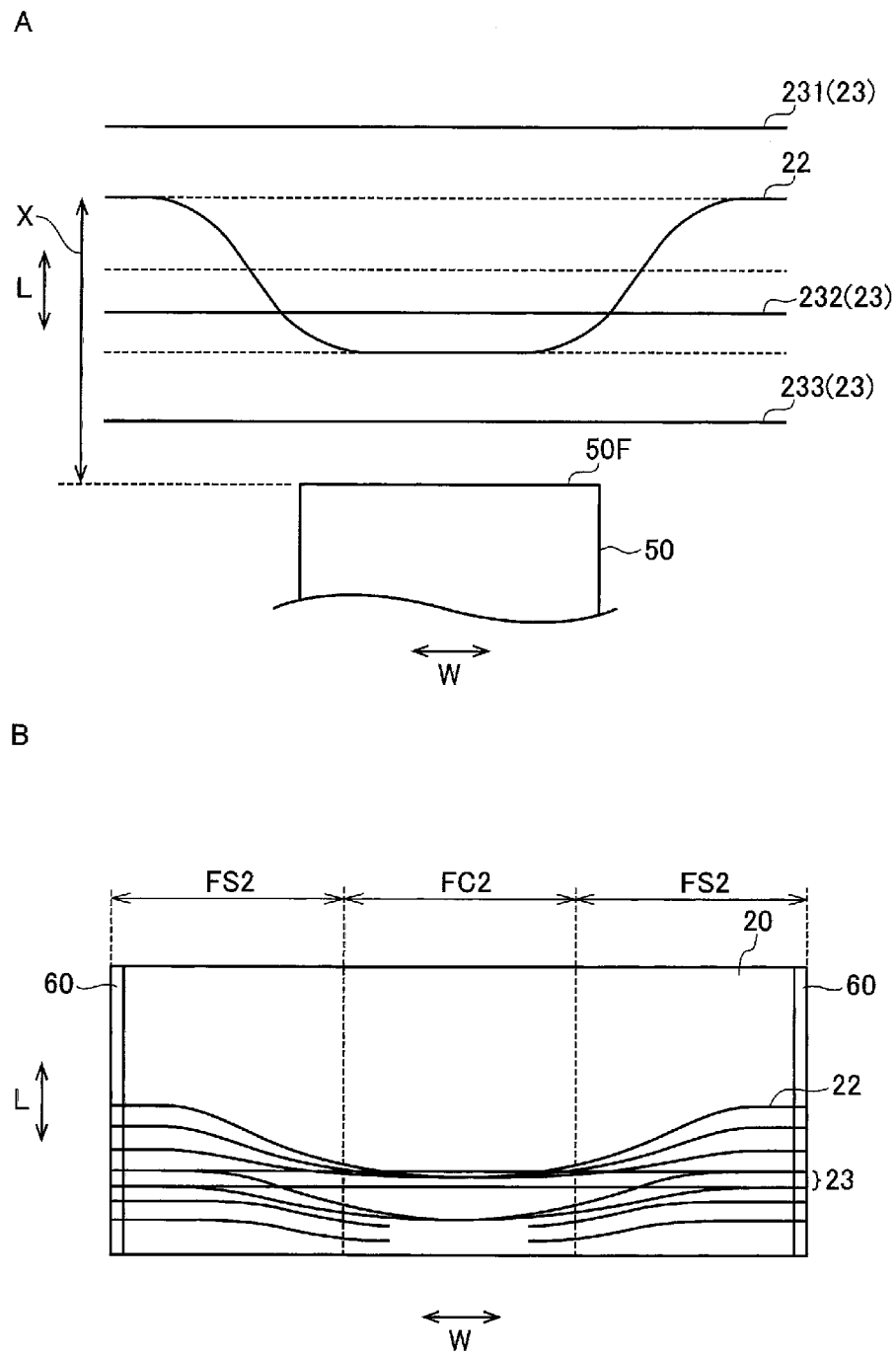
[図5]



[図6]



[図7]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/048619

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl. A61F13/49 (2006.01) i, A61F13/494 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl. A61F13/49, A61F13/494

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2019
Registered utility model specifications of Japan	1996-2019
Published registered utility model applications of Japan	1994-2019

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 2018/083768 A1 (UNI-CHARM CORP.) 11 May 2018, paragraphs [0036]-[0039], [0047]-[0051], [0062]-[0064], fig. 1-2, 5-7 (Family: none)	1-6, 8-11, 15, 21-22
Y		23
A		7, 16-20
X	JP 2015-165852 A (OJI HOLDINGS CORPORATION) 24 September 2015, paragraphs [0014]-[0019], [0023]-[0024], [0039], [0057]-[0059], fig. 1-3 (Family: none)	1-5, 11-15, 21-22
Y		23



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

01 April 2019 (01.04.2019)

Date of mailing of the international search report

09 April 2019 (09.04.2019)

Name and mailing address of the ISA/

Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/048619

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 2015/198661 A1 (UNI-CHARM CORP.) 30 December 2015, paragraphs [0013]-[0021], [0027], fig. 1-4 &	1, 5-6, 8, 11
Y	JP 2016-10513 A	15, 21-22 23
X	JP 2006-122456 A (DAIO PAPER CORP.) 18 May 2006, paragraphs [0020]-[0027], [0033]-[0036], fig. 1,	1, 8-11,
Y	5-8 (Family: none)	13-15, 21-22 23
Y	JP 2011-250893 A (UNI-CHARM CORP.) 15 December 2011, paragraphs [0034]-[0037] & US 2013/0079742 A1, paragraphs [0041]-[0044] & WO 2011/152336 A1 & EP 2578196 A1 & CN 102933187 A	23

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/49(2006.01)i, A61F13/494(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/49, A61F13/494

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2019年
日本国実用新案登録公報	1996-2019年
日本国登録実用新案公報	1994-2019年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y A	WO 2018/083768 A1（ユニ・チャーム株式会社）2018.05.11, 段落[0036]-[0039], [0047]-[0051], [0062]-[0064], 第1-2, 5-7 図 (ファミリーなし)	1-6, 8-11, 15, 21-22 23 7, 16-20
X Y	JP 2015-165852 A（王子ホールディングス株式会社）2015.09.24, 段落[0014]-[0019], [0023]-[0024], [0039], [0057]-[0059], 第1-3 図 (ファミリーなし)	1-5, 11-15, 21-22 23

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

01.04.2019

国際調査報告の発送日

09.04.2019

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

▲高▼辻 将人

電話番号 03-3581-1101 内線 3320

3B

9823

C (続き) . 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	WO 2015/198661 A1 (ユニ・チャーム株式会社) 2015. 12. 30, 段落[0013]-[0021], [0027], 第 1-4 図 & JP 2016-10513 A	1, 5-6, 8, 11, 15, 21-22 23
X Y	JP 2006-122456 A (大王製紙株式会社) 2006. 05. 18, 段落[0020]-[0027], [0033]-[0036], 第 1, 5-8 図 (ファミリーなし)	1, 8-11, 13-15, 21-22 23
Y	JP 2011-250893 A (ユニ・チャーム株式会社) 2011. 12. 15, 段落[0034]-[0037] & US 2013/0079742 A1, 段落[0041]-[0044] & WO 2011/152336 A1 & EP 2578196 A1 & CN 102933187 A	23